

③五九頭竜川水系直轄砂防事業

受賞機関 国土交通省 近畿地方整備局 福井河川国道事務所

キーワード 真名川ダム・笹生川ダムの堆砂抑制、インフラ保全、自然環境・山間レクリエーション空間保全、魚道設置、PC材を使用したアーチ式砂防堰堤、無人化施工、記念碑揮毫

全建賞審査委員会の評価ポイント

昭和53年度の直轄砂防事業着手以来、アーチ式砂防堰堤やアイスハーバー式魚道等の特徴ある砂防施設を整備し、長期にわたり過酷な施工条件のもとで砂防事業を完了させ、流域の公共施設の保全及び下流域の治水安全度の向上に寄与した点が評価された。

1. はじめに

九頭竜川水系真名川流域は、急峻かつ脆弱な地質条件を有し、昭和40年奥越豪雨をはじめ、土砂災害が頻発してきた地域である。

真名川ダムの完成に伴い、ダムの治水機能を長期的に維持するためには上流域からの土砂流入の抑制が不可欠であることから、昭和53年度から直轄砂防事業に着手した。

本事業は、約47年の歳月を経て、砂防堰堤32基及び山腹工1箇所等を整備し、令和7年3月に完成した。



昭和40年奥越豪雨による西谷村の土砂災害

2. 事業の概要

昭和60年に砂防基本計画が策定され、真名川ダム等の完成後100年間における流出土砂量の抑制を目的として、砂防施設の整備を開始した。

本事業の施工箇所は急峻な地形条件下にあり、資機材の搬入や施工時の安全確保が課題であった。このため、PC材を用いたアーチ式砂防堰堤の採用や無人化施工の導入等により、施工性及び安全性の向上を図った。また、アイスハーバー式魚道等の設置により自然環境に配慮し、多面的な機能を有する砂防施設の整備を進めた。

3. 事業の成果

本事業により、砂防堰堤32基を整備し、流域からの土砂流出を抑制することで、真名川ダム及び笹生川ダムにおける堆砂の進行抑制に寄与した。その結果、ダムの治水機能の維持が図られ、下流域の治水安全度の向上に貢献している。また、国道157号や発電施設等の重要インフラの保全を図るとともに、自然環境及び山間レクリエーション空間の保全にも寄与している。

本事業の完成に当たり、令和7年4月19日に九頭竜川水系直轄砂防事業完成式典を開催し、完成記念碑を設置するとともに、砂防施設の管理を福井県に移管した。



完成式典における記念碑の除幕

4. おわりに

本事業では、長期にわたり流域の土砂管理を継続し、ダム機能の維持と地域の安全確保に寄与してきた。整備された砂防施設は、今後もダムの治水機能の維持、公共施設の保全及び自然環境の保護に貢献し、流域の安全と持続的利用を支え続ける。

長年にわたり本事業を支えていただいた関係者各位及び地域住民の皆さまに深く感謝するとともに、心より敬意を表する。

賛助会員 日本工営(株)、(株)建設技術研究所、
パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)ニュージェック、
大日本ダイヤコンサルタント(株)、(株)東京建設コンサルタント